




先行審査プラントの記載との比較表（VI－2－別添 3－2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）



| 柏崎刈羽原子力発電所第 7 号機 | 先行審查プラントの記載との比較表（VI－2－別添3－2 可搬型重大事故等対处設 |
| :---: | :---: |
| 《参考》東海第二発電所 |  |


| 3．保管エリア等における入力地震動の算定 <br> 3.1 保管エリア等における入力地震動の算定方針 <br> 保管エリア等における入力地震動は，水平方向及び鉛直方向に対して，解放基盤表面で定義される基準地震動 S s を基 に，各保管エリア等における地震応答解析により算定する。基準地震動S s は添付書類「VI－2－1－2 基準地震動S s 及び弾性設計用地震動 S d の策定概要」による。 <br> 第1，第3，第4保管エリアにおける地盤の地震応答解析は，一次元重複反射理論により行う。解析コードは「SHAKE Ver1．6」及び「microSHAKE／3D Ver2．3．3」を使用する。 <br> 第2保管エリアは淡水貯水槽上に設定されており，地盤及 び構造物の地震応答解析は二次元 FEM 解析により行う。解析 コードは「SuperFLUSH／2D Ver．6．1」を使用する。 <br> 緊急時対策建屋北側における地盤の地震応答解析は，一次元重複反射理論により行う。解析コードは「SHAKE Ver1．6」を使用する。 <br> なお，解析コードの検証及び妥当性確認等の概要について は，添付書類「VI－5 計算機プログラム（解析コード）の概要」 に示す。 <br> 保管エリア等における入力地震動の算定フローを図 3－1 に示す。 <br> 図 3－1 保管エリア等における入力地震動の算定フロー図 | - 記載表現の相違 <br> - 記載表現の相違 <br> （女川は，「3．4 地震応答解析 に用いる地震動」に記載） <br> －設計の相違 <br> （使用する解析コードの相違） <br> －設計の相違 <br> （保管エリア等の設置状況の相違） <br> - 記載表現の相違 <br> - 記載表現の相違 <br> - 記載表現の相違 <br> （女川は，添付書類「VI－2－1－3地盤の支持性能に係る基本方針」に基づき設定） <br> －記載表現の相違 |
| :---: | :---: |



















先行審査プラントの記載との比較表（VI－2－別添 3－2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動）


| 柏崎刈羽原子力発電所第 7 号機 | 《参考》東海第二発電所 | 女川原子力発電所第 2 号機 |  |  |  |  | 備考 |
| :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | （3）使用材料及び材料の物性値 <br> 第 2 保管エリアである淡水貯水槽における使用材料及び地震応答解析に必要な材料の物性値を，表3－10に示す。 <br> 表 3－10 使用材料及び材料の物性值＊＊ |  |  |  |  | - 記載表現の相違 <br> - 評価方法の相違 <br> - 記載表現の相違 <br> - 記載表現の相違 |
|  |  |  |  | $\begin{gathered} \text { せん断弾性係数 } \\ \begin{array}{c} \mathrm{G} \\ \left(\mathrm{~N} / \mathrm{mm}^{2}\right) \end{array} \\ \hline 0.945 \times 10^{4} * 2 \end{gathered}$ |  |  |  |
|  |  | 注記＊1 ：鉄筋コンクリート構造計算規準•同解説（2010 改定） $\begin{aligned} * 2: \mathrm{E}=3.35 \times 10^{4} \times\left(\frac{23}{24}\right)^{2} \times\left(\frac{24}{60}\right)^{\frac{1}{3}} & =22669 \mathrm{~N} / \mathrm{mm}^{2} \\ & \Rightarrow 2.27 \times 10^{4} \mathrm{~N} / \mathrm{mm}^{2} \\ \mathrm{G}=\frac{3.35 \times 10^{4} \times\left(\frac{23}{24}\right)^{2} \times\left(\frac{24}{60}\right)^{\frac{1}{3}}}{2(1+0.2)} & =9445.4 \mathrm{~N} / \mathrm{mm}^{2} \\ & \Rightarrow 0.945 \times 10^{4} \mathrm{~N} / \mathrm{mm}^{2} \end{aligned}$ $\text { *3: 鉄筋コンクリートの場合は } 24 \text { とする。 }$ <br> （4）基準地震動 S s <br> 保管エリア等における地震応答解析に用いる基準地震動 S s は，添付書類「VI－2－1－2 基準地震動S s 及び弾性設計用地震動 S d の策定概要」に基づき，水平方向及び鉛直方向 に対して，解放基盤表面で定義される基準地震動 S s を用 いる。 |  |  |  |  |  |


















| 柏崎刈羽原子力発電所第 7 号機 | 《参考》東海第二発電所 | 女川原子力発電所第2号機 | 備考 |
| :---: | :---: | :---: | :---: |
|  |  | 4．加速度応答スペクトルの算定 <br> 保管エリア等における入力地震動の解析ケースより，最大応答加速度と加速度応答スペクトルを整理する。 <br> なお，本資料では，表3－13に示す解析ケースのらち「基本ヶ ース」の算定結果を示す。 <br> 4． 1 保管エリア等の最大応答加速度 <br> 第 1 保管エリアの最大応答加速度（基本ケース）を表 4－1～表 4－3 に，第2保管エリアの最大応答加速度（基本ケース）を表 4－4 及び表 4－5 に，第3保管エリアの最大応答加速度（基本ケース）を表 4－6 及び表 4－7 に，第4保管エリアの最大応答加速度（基本ケース）を表 4－8 及び表 4－9に，緊急時対策建屋北側の最大応答加速度（基本ケース）を表 4－10 に示す。 | - 記載表現の相違 <br> - 記載表現の相違 <br> - 保管場所及び保管場所名称の相違 |

